

UA神奈川学習センター ふゆだより

通巻第41号

2010年1月発行

発行:放送大学神奈川学習センター 〒232-0061横浜市南区大岡2-31-1



大岡川 サギの魚捕り 撮影:渡辺 慎介 所長

目次:

年頭の所感	神奈川学習センター事務長 宮崎 安博	2
世界公開大学学長シンポジウムinさいたま		3
学習センターニュース	(県立外語大 石段祭/公開シンポジウム 「地域に根ざした生涯学習」/公開講演会「酒と食と発酵文化」/面接授業 「日本のバブルはなぜ起こったか」/寄付の受け入れについて)	4~5
平成21年度学生研修旅行		6~7
神奈川学習センターウォーキング「河川網をめぐり開港場へ」		8~9
学生生活に関するアンケート		10~13
K-サポートからのお知らせ/サークル協議会より		13
学生サークルからのお知らせ/同窓会からのお知らせ		14~15
学習センターからのお知らせ		16

年頭の所感

神奈川学習センター事務長 宮崎 安博

明けましておめでとうございます。年頭に当り神奈川学習センター(以下「神奈川SC」という。)の歴史を振り返りつつ、何点か述べさせていただきます。

神奈川SCは、昭和60年4月の学生受入に備え、昭和58年4月横浜国立大学工学部図書館(現横浜国立大学附属横浜中学校)に仮事務所を置き、宮代彰一初代神奈川SC所長を迎えスタートしました。神奈川SCの建物は、昭和59年9月に工事を着工し、昭和60年1月に竣工(建物面積1,224.42㎡)しました。現在の建物は学生数の増加とともに、平成6年及び平成12に増築を重ね3,209.49㎡(昭和60年竣工時より2.6倍の広さ)となっています。

昭和60年4月に学生受入を開始した群馬、埼玉、千葉、東京第一(現世田谷)、東京第二(現文京)及び神奈川の6センターは、平成22年4月に25周年を迎えます。そこで南関東7SCでは25周年を記念し、共同事業による企画(本年度開催する公開講演会及び祭り等のイベントに「25周年事業」の冠を付す。)を計画しています。

神奈川SCのセンターだよりは、平成10年1月に「UA神奈川学習センター発だより」として教員・職員・学生による編集スタッフにより初刊号を発行しました。途中、諸事情により2年間センターだよりを休刊する時期がありました。平成20年4月に発足した「K-サポート制度」を契機に、学習センター機関紙編集チームを立ち上げ、平成20年7月から再刊する運びになり現在に至っています。ひとえに機関紙編集支援チームの皆様に御礼申し上げます。

神奈川SCの建物は、上述のとおり築25年を迎え老朽化も進んでいることから平成20年度にトイレ、平成21年度に外壁及びエレベーター



と順次改修工事を行い、学習環境の整備を図ってきたところです。また本年2月初旬から3月末まで講義室の内装工事を行うことになりました。工事が終了する間、ご不便をおかけしますがよろしくお願いします。

放送大学の在學生は、平成15年(約10万人)をピークに、年々減少の一途をたどり、平成21年2月の時点では約8万3千人に減少し、放送大学の存続も含め危機感が募っています。幸い神奈川SCでは、学習支援チームを初め、同窓会、サークル協議会の強力なご支援もあり、平成21年度第1学期、第2学期共に、入学者の下げ止まりが実現できました。今後も新規学生の増及び在学生の未登録・除籍・退学者の減少に努めていきたいので、更なるご支援をお願い申し上げます。

最後になりますが、今後も神奈川SCの学生及び教職員間の風通しを良くし、学生・教職員が一体となった活動を展開し、現在より更に「活気のあるSC」とすべく努力していきたいと思っておりますので、益々のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

「世界公開大学学長シンポジウムinさいたま」 うえるかむKanagawa

学生サークル“うえるかむ”の全体会は、この度のシンポジウム開催に際し成田への出迎えとFarewell partyのお手伝いをさせて頂きました。13日は早朝より夜迄2名ずつ一組となり6名の学長を成田へお出迎え、浦和のパインズホテル迄タクシーでご案内しました。15日のシンポジウム会場の浦和コムナーレでは、メンバーがお茶をたてシンポジウムの中休みにゲストの方々に一服差し上げ喜ばれました。6時からパインズホテルで放送大学主催のFarewell partyが行われ、私達は舞台上で各ゲストの言語でご挨拶、英語で専攻などを自己紹介し、振袖、訪問着、浴衣など着物姿も紹介。「さくら、さくら」など英語と日本語で一緒に歌い他にも書や舞踊を披露、日本文化を拙いながらも紹介し少しはお役に立てたかと思っています。(以上星礼子記)

シンポジウム開催日の2009年11月14日〔土〕午前10時は丁度前日より来日中のアメリカ・オバマ大統領の演説が東京サントリーホールで開催されており、日本国内政財界、教育・文化関係者が多数招待された一大イベントが挙行されていました。司会の放送大学高橋和夫教授が“聴衆の皆さん今まさに開会中の“世界公開大学学長シンポジウムinさいたま”はオバマ大統領の演説よりも権威があり傾聴に値するものがあります”と口火を切られました。ご来賓の鈴木寛民主党議員・文部科学副大臣もエール送りで“私もオバマ大統領の演説に招待されましたがそちらをお断りし、前々からの約束を放送大学へ果たしました”と述べられ、放列するテレビカメラ、英語⇄日本語の同時通訳、会場の雰囲気がいやが上にも盛り上がりました。

基調講演に坂東久美子文科省生涯学習政策局長が述べられた“生涯学習社会の構築に向けて～日本における現状と課題を中心に～”の内容は放送大学の教材その他で広報されており目的は今回出席の外国賓客へ日本の生涯

学習の制度・経過説明として妥当と受けました。

今回参加の世界公開・遠隔大学は主催国「日本」を含め10か国に及び、ご出席の学長は国際会議に相応しく皆様全員がハイ・プロファイルな方々ばかりで発言の英語も格調高く恐縮しつつ拝聴致しました。受付時に手渡されたハンドアウトは分厚い資料一式で、即時に判読可能な代物ではありません。

分科会は司会、講演者、討議者各々の役割分担を明確にし、司会の指名で講演者は準備した英文原稿をあくまでも自分の言葉で語り、聴衆にはより一層具体的に内容をパワーポイント投射し、一通りの発表が終わった時点でマイクを司会者に戻し改めて討議者が専門家の立場からコメントを発言し、会場の雰囲気が必要と認められれば一般聴衆からも追加質問形式で受け付けられました。一般質問に、「質問には英語でなくても日本語で結構です、同時通訳がおりますので」と司会・高橋教授の心遣いもありました。

分科会発表にはまた国別、部門別それぞれに独自性、専門性が発揮され、公開大学・遠隔教育のグローバルな近年動向を伺いました。当日一般聴衆の中に幾人かの放送大学教授、十指を数える学生・知人も拝見し、放送大学の将来展望が如何に関心度の高いかを示すものと認識しました。分科会の合間を縫って高橋教授が会場ロビーにてメインゲストとテレビインタビューしておられました。近々「大学の窓」コーナーで素晴らしい英語を拝聴出来るものと思います。(以上佐藤勝衛記)



県立外語短大 石段祭

神奈川学習センターとの単位互換校である神奈川県立外語短大の石段祭(「きざはしさい」と読みます、大学祭です)が、昨年11月13・14両日、開催されました。

石段祭の実行委員会および同短大の同窓会から当センターあてに、石段祭への参加協力の打診があり、事務室が放送大についての広報、またサークルの韓国語同好会とウエーカむKanagawaの皆さんが模擬店開催という形で応じました。



神奈川学習センターには教室1室が充てられ、放送大のリーフレットや学習センターの講演会等案内チラシが展示される傍らで、それぞれのサークルが、韓国スイーツとコーヒーの販売を行いました。

た。お店には、放送大の学生、外語短大の教員や学生、地域や他大学からの学生らが絶え間なく訪れテーブルのまわりで談笑する姿が見られました。

また14日は渡辺センター所長がサークルのメンバーの激励に駆けつけ、さらに外語短大の三國学長を表敬訪問されるなど、単位互換校間の交流が一層深まりました。



英語などの語学を主体とした教育課程に定評のある外語短大は当センターから徒歩で15分程度ですが、2011年3月末に閉学が予定されています。残された2学期間に、単位互換協定に基づく特別聴講制度を活用して学んでみませんか。出願資格や履修相談は、今号最終ページをご覧ください(当センターは他に、横浜国立大学とも単位互換協定を結んでいます)。

公開シンポジウム「地域に根ざした生涯学習」

12月5日(土)海老名市中央公民館で、放送大学主催、県央の8市共催による、公開シンポジウム「地域に根ざした生涯学習」が開催されました。

第1部は、放送大学教授 岩永 雅也 教授の基調講演「地域に根ざした生涯学習～ネットワークのすすめ～」生涯学習は、学校教育のように最初にすべてを学ぶのではなく、学ぶ期間と活用する期間を繰り返すシステム。さらに、終点を決めずに逐次学んでゆくような方法もある。また、



会場風景

人々や地域、学習を繋いでゆくような官と民の人材が必要であると講演されました。

第2部は、パネル討論。神奈川県央の8つの自治体、その第一



岩永 雅也 教授



海老名市教育委員会
多久島 勲 氏



伊勢原市教育委員会
黄木 敏男 氏



座間市教育委員会
八木 亨 氏



秦野市教育委員会
横溝 昭次 氏



厚木市協働安全部
山崎 和美 氏



大和市文化スポーツ部
西山 正徳 氏



相模原市教育委員会
土井 永好 氏



綾瀬市教育委員会
今井 茂 氏

線で生涯学習に取り組まれている8氏から現状と計画についてのお話がありました。休憩を挟んで質疑応答。生涯学習についての展望や公民館の役割、生涯学習団体の連携などについて、会場から鋭い質問がつつき白熱したシンポジウムとなりました。

公開講演会「酒と食と発酵文化」

弘明寺商店街で酒屋を営み街の“お酒博士”といわれる元国税庁醸造試験所の川松正孝さんの講演が12月12日神奈川学習センターで行われました。



発酵食品は、美味しい、栄養がある、消化しやすい、健康によい、保存ができる、という特徴がある。日本で、酒、味噌、鰹節などの発酵文化が発達したのは、湿度が高くカビを使った発酵が容易だったから。本当の甘酒は、米麴により米などに含まれたでんぷんと蛋白質を分解して作られ「飲む点滴」といわれる。体調の悪いときには是非飲

んでほしいし、日常的にも飲まれることを勧める。

お屠蘇は、餅米から作られたみりんに漢方薬である屠蘇散を浸したものだ。特別な日に食べる餅米と健康のために漢方薬の成分を摂取するという好ましい習慣である。お酒の飲み方で、冷、燗の適温には、種々の俗説があるが、お酒にはたくさんの成分が含まれており、成分のバランスによって、適温も変化する。一般的には、香りを楽しむお酒は冷やで楽しみ、味わいの深いお酒は味覚が敏感になる温い燗がよい。など、楽しい知識のたくさん詰まった講演でした。また、5月には、川松さんを講師にお招きして、面接授業「発酵の文化…酒と食を楽しむ」が、当センターで開講されます。



面接授業「日本のバブルはなぜ起こったか」

放送大学大学院で修士号を取られた古野高根先生が講師をつとめる面接授業「日本のバブルはなぜ起こったか」が、平成21年10月18日から11月15日にかけて当センターにて開講され、最終回の授業を取材しました。



講義では、アメリカのサブプライムローン仕組みの説明や参考書の「20世紀末バブルはなぜ起こったか」から生まれた議論が紹介されました。講義の終わりに「経済学を学ぶと、自分を客観的に見ることができる。」と締めくくられました。受講者に

は、日本のバブルを知らない若い方もいて「日本のバブルを経済の歴史としてしっかりと学びたい」と話してくれました。



後日講師の古野先生からメッセージをいただきましたので紹介いたします。

「専門的なテーマでしたが、統計データをもとに日本経済の客観的な見方をできるだけ具体的に説明しました。これを機に身の回りの経済問題にも関心をむけてもらえれば幸いです。それにしても学生諸君の真剣な受講態度には感心しました。」

寄附の受入れについて

下記の学生団体から寄附の申し込みがあり、受入れました。
ここに、御礼を申し上げるとともに、お知らせします。

記

寄附者: 神奈川学習センターテニスクラブ (Together) <H21年3月廃部>

寄附金額: 43,370円

寄附目的: 神奈川学習センター学生のために使用。

寄附受取団体: 神奈川サークル協議会

寄附受入日: 平成22年1月10日

平成21年 学生研修旅行記

永井 藤樹

11月23日の金曜日は、学習センター主催の「学生研修旅行」でした。横須賀の「海洋研究開発機構(JAMSTEC)」「横須賀美術館」と「くりはま花の国」の3か所です。参加者32名(学生のみ)と渡辺所長、原田先生とともに小方係長をはじめ、事務室の方々同伴で予定通り天理ビル前を8時半に出発「海洋研究開発機構」に向かいました。ここが地球環境の研究の上でとても大事な仕事をしていることを知りました。海洋は地球表面の7割を占めているので、地球温暖化を含む地球環境システムに大きな影響を与えます。「しんかい6500」の実物大模型に乗り、あまりにも狭い操縦室で観察・研究をしているご苦労を知りました。また深海と同じ状態の高水圧下の試験を観察し、地上では想像していなかった深海底での現象を目の当たりにすることができ、科学づくめでした。見所沢山の「海洋研究開発機構」でしたが、時間の制約上、名残惜しく次の目的地に向かいました。



東京湾は浦賀水道を前に観音崎の「横須賀美

術館」は新粧間もない立派な美術館で、建物そのものが芸術作品です。レストランが併設されていて、美味しそうなフランス料理を横目に見ながら入口に進みました。我々はお弁当でしたから。美術館の前が海。ネイビーブルー

の海の青さです。沢山の船が沖を行き交い、昼寝をしながら一日のんびり眺めていても、少しも飽きない所だと思いました。開館して間もない美術館であるにも拘らず、なじみの有名画家の絵画を沢山所蔵しています。この美術館の特徴の一つは、長く「週刊新潮」の表紙を飾ってきた谷内六郎の絵を所蔵し、常設展示していることです。童心を失わず、ふわっと暖かなものを感じさせる谷内六郎さんの絵は懐かしい子ども心に帰してくれます。「花の国」のコスモスは、もう終わりでした。足湯に浸かって疲れを取り、ブルーベリーのソフトクリームを舐めながら、童心に帰って男女共々に、お喋りしながら帰路に着きました。



科学と文化と自然を含むとても充実した一日でした。

科学と文化と自然を含むとても充実した一日でした。



学生研修旅行への道程

大木 陸夫

バス研修・特別行事チームは、今年度の研修旅行にむけて、学校の年度計画が確定したら速やかに提案できるよう、最初の打ち合わせを2月27日に行いました。この会議では、静岡、山梨、箱根、三浦半島方面の4コースについて分担して素案を持ち寄りました。各人は周囲の人に意見を聴くなどして、

見学箇所の候補地を選定してきました。古寺名刹あり、美術館あり、植物園あり、研究機関ありでどこも行ってみたい所ばかりでした。入場料や駐車場、昼食のとれる場所などの条件も調べていきました。三浦半島コースは横須賀にしぼったものになりました。こうして4コースの提案内容がほぼ出来上がりました。

第2回目の会議は5月12日でした。これには原田先生、小方係長も参加してコースの選定を行いました。最終的に横須賀コースとすることが決まりました。

6月19日、サポーターは、くりはま花の国、横須賀美術館、海洋研究開発機構を下見しました。くりはま花の国ではどう過ごすか、横須賀美術館はどうか、海洋研究開発機構はどんな所かなどを見て回り、コースをどう進めたらよいかを検討しました。

9月16日、原田先生、小方係長も参加しての第3回目の打ち合わせです。この日の主

要な議題は、実施当日の進行の最終調整でした。バス車内の進行、自己紹介などについて確認をしました。

10月23日、学生32名が参加して、神奈川県をもっと知る(横須賀)をテーマとした学生研修旅行が実行されました。

11月25日、原田先生、小方係長らも参加して反省会となる会議を行いました。参加者の感想や改善点なども出されました。次年度の計画に反映させる点などを確認して、今回の学生研修旅行の締めくくりとしました。



JAMSTECの専用岸壁



シートピア計画実験施設の保存展示(JAMSTEC)



しんかい2000(JAMSTEC)



高圧実験の解説(JAMSTEC)



横須賀美術館学芸員さんによる説明



横須賀美術館本館全景



ハーブ園(くりはま花の国)



公園内の散策風景(くりはま花の国)



記念写真(くりはま花の国)

写真は、センターだより編集部撮影

河川網をめぐり開港場へ

久保 芳美

ウォーキングを楽しみながら、地元の歴史を掘り起こすほぼ一日がかりの内容が百円(保険料)?! 地下鉄弘明寺駅で目にしたポスターに惹かれ、すぐにメールで申し込みました。放送大学が近くにあることは知っていましたが、当日はじめて入った建物の中で一番印象的だったのは、各トイレのドアがジャバラ式だったこと。バリアフリーで誰でも学べる環境を整えているのだと実感しました。

プログラムの内容は、午前中のコースの見どころ紹介と、昼食後のツアーでの現地を見ながらのわかりやすい解説で当時の風景を想像することができました。蒔田公園を出た吉野橋のところで大岡川が中村川と枝分かれする姿を目の当たりにしたときなど、近くにあるのにそれまで気づかなかったことが多々ありました。吉田新田として埋め立てられて以降存在していた12の川は、今では4つしか残っていませんが、全て清流の形で現存してい



たらとイメージすると、さわやかな気持ちになれました。

今回のプログラムを企画運営されたのが地域連携チームの皆さんであり、こうしたチームが2年前に立ち上がったことや、会の皆さんが写真を収集し現地に足を運びながら地域研究されていると伺いました。研究内容を発信することは、多くの人に地域理解を促し、地元への愛着を増すのであり、こうした市民活動はとても有意義であると思います。

ウォーキングの仕方を入れての出発でしたが、8キロの行程ですっかり疲れて歩くのがやっとでした。ご一緒した諸先輩方の健脚に、自らの日ごろの運動不足を痛感したツアーでもありました。充実したプログラムをありがとうございました。



ウォーキングガイド体験記

竹内 裕子

2009年11月9日(土)青空のもと、ウォーキングの会主催「河川をめぐり開港場へ」のウォーキングが実施されました。

横浜市内中心部を流れる河川を通して、明治時代に関内関外地区が市街化される様子をたどる目的で資料を集め、現地での下見会を重ねて、今日の開催となりました。80名の参加者は、10人前後のグループに別れて、リー



ダーとサブリーダーが引率します。リーダーは、コース内に決めたポイント毎に解説して歩く予定です。

午前10時からの受付・代表藤田さんによる事前学習とプログラムは進み、センター玄関前でのウォーキングアップを終え、いよいよ出発です。私は今回が初めてのガイドでしたので、長時間の屋外での解説は、声が続くかどうか心配でした。

大岡川から蒔田公園へ向かいます。すでに先頭グループから、大分遅れてしまいました。出発の際サブリーダーに言われながらも、自己紹介も省略してしまいました。すみません。

焦りながら日枝神社に到着。吉田新田の総鎮守です。境内には、新田埋め立てに貢献した伏島近蔵の記念碑もあります。「いかにも知っているようにしゃべることはできても、ちょっとした質問に答えられないのが、新米ガイドだな。」と思いつつ、次のポイントへと中村川に沿って歩きます。道幅が狭く隊列は蛇のように長く延びています。時間も押し



ています。でも説明は少しなめらかになったかな。池下橋から、ショートカットして阪東橋公園へ。やっとトップに追いつきました。馴れたせい、参加者の方々とお話しながら歩きます。いろいろご存知の方も多く、時にはヒヤリとするこ

ともありますね。旧吉田川の川筋である大通り公園から関内へ。埋め立てられた派大岡川に沿って歩きます。市役所から中華街へ。ここまで来て、私は放送大学のハッピーを着て歩いていたことに気づきました。時々すれ違う人の視線が感じられたわけだと思いました。



西の橋から元町に向かいます。堀川はここから始まります。河岸通りは、通常でも狭いのにさらに工事中でした。まあ慌てずゆっくり歩きましょう。増徳院から元町メインストリートへ。土曜日で人通りが多いですね。機械製氷発祥の地から、フランス山を経てへボン邸跡地へ。皆さん、や

やお疲れでしょうか。あつ、関門関所としての谷戸橋の説明を忘れたことに気づきました。しかし、そんなことは顔に出さずに歩きます。でもさっきからなめている「のど飴」がもうなくなりそうです。



へボン邸跡地からマリンタワーへ、山下公園を右に見て、ホテルニューグランドと旧英国七番館です。コースは、山下公園に入る予定なのですが、参加者の了解を得てカットします。ガイドとは、コースポイントをいかにうまくカットしてまとめるかがポイントでしょうか。



さあ！開港広場に到着しました。日米和親条約締結の地、山下居留地遺構下水道マンホールの説明で全

コースが終わりました。参加者の皆様、サブリーダー、お世話になった方々ありがとうございました。終わってみれば、早すぎた歩き方・説明不足など反省すべき点が次々と浮かんできます。

ウォーキング終了後、大栈橋での懇親会は夕日を見ながらの乾杯、MM21・横浜三塔のライトアップなど、暮れゆく港の眺めを満喫しました。「また、やってみようかな？」と思いながら、夜のとばりが落ち始めた横浜港を後にしました。



学生生活に関するアンケート(卒業式配布分)

機関紙編集チーム 木下 義則

1. 配布年月日：平成21年10月11日

2. 回答数…54人

3. 属性

a) 学生種別

全科履修生 54 100.0%

生活と福祉 13 24.1%

発達と教育 16 29.6%

社会と経済 12 22.2%

産業と技術 6 11.1%

人間の探究 5 9.3%

自然の理解 0 0.0%

専攻未記入 2 3.7%

b) 性別・年齢別 男性 女性 不明 合計

23 42.6% 28 51.9% 3 5.6% 54

20代 3 13.0% 2 7.1% 0 — 5 9.3%

30代 1 4.3% 4 14.3% 0— 5 9.3%

40代 5 21.7% 8 28.6% 0 — 13 24.1%

50代 5 21.7% 44.3% 0 — 9 16.7%

60代 5 21.7% 8 28.6% 0 — 13 24.1%

70代 4 17.4% 2 7.1% 0 — 6 11.1%

80代 0 0.0% 0 —0— 0 0.0%

年齢未記入 0.0% 0.0% 0 —0 0.0%

年齢性別未記入 3 —3 5.6%

c) 入学動機

入学動機はさまざまであるが、「大学卒業資格取得」が全体の25%と高く50代以前の若年・中堅層が8割を占める。次いで多いのが「教養をつけたかった」(22.0%)・「スキルアップ」(19.5%)であり若年層を含む全ての年代で平均的に出ているのが特徴か。

d) 再入学について

放送大学の特徴である、再入学の多い傾向が現れている、回答者のみの集計で学部・大学院何れかに再入学する割合は7割を超えている。(無回答者を含めても約5割)

4. 学習センターの利用について学習センターの利用については、「単位認定試験のみ」と答えた人が2.8%と非常に少ない、卒業を達成した人は積極的にセンターを活用してきた結果であろうか。項目別では、

「面接授業に参加」が一番多く40%であり、「図書室を利用」が26%、次いで「再視聴」が23%である。これらの傾向は前回調査時(2008年10月)と同様である。「サークル活動に参加」という項目では5%と低い率となっており、学生全体のサークル参加率と同程度の率となっている。

他の学習センターの利用状況は9割強と高くなっている、面接授業の受講が約6割であった。

5. 講義内容の満足度について

講義内容について、「理解できたか」という設問に対し90%の人が「理解できた」と回答した。また社会生活や仕事に役立ったかという設問に対しては更に高い96.0%の卒業生が役立ったと答えている。(傾向は前回同様)

6. 学習生活で迷ったときの対処法

「学習センターの事務室に相談する」という回答が多く回答者の41%を占めている。(前回回答45%)次に「知人に相談した」(35.9%:前回22.5%)で、「先生に相談する」(5.1%:前回10%)が意外と低かった、卒業生も先生に相談する事が敷居が高いと感じているのか?

7. 研修旅行について

以外にも「参加したことがある」が7.8%と非常に少ない。しかし「毎回楽しく参加しております」などのコメントを見ると積極的姿勢が感じられる、「知らない」と回答した人が24%いるという現状とコメントでも広報が足りないとの指摘もあった。

8. サークル加入に関すること

サークル加入に関することは「入っていない」が圧倒的で72%を占める結果となった。その理由の76%が「時間がない」であり50代以下の現役世代が多い結果となった。この傾向は前回調査並びに入学者の集いのアンケート結果と同様でありサークル活動に時間を割くことが困難との意識が強いようである。

9. フェスタ・ヨコハマについて

フェスタ・ヨコハマは「参加したことがない」「知らない」の合計が約6割となっている。「参加したことがある」人の割合は約30%となっており、前回調査の倍となっている。

10. 学習相談会について

学習相談会については新入生とは違い「相談したいと

も思わない」という回答が40%を占めている、卒業生の自信のあらわれか。また「相談会を知らない」の回答が28%ありPR不足を感じた。

<相談内容等:コメント>

・将来の仕事に活かすために進路など、他大学の大学院についても知りたい。

・将来の仕事について

11. 「センターだより」について

センターだよりの掲載内容については項目別にまんべんなく、9%~18%となっている。「学習センターからの事務連絡」(18.3%)「卒業研究・修士論文その他研究に関すること」(17.5%)「面接授業の話題」(15.1%)「講演会・行事の話題」(13.5%)の順となっている。

12. 「チーム制サポーターシステム」について

チーム制サポーターシステムについては認知度が低く「知らなかった」が79%を占める。

13. 「大学や先輩から支援を受けられるとしたら何を希望しますか」の問いへの回答

・放送・面接授業でどのような事が興味深かったか聴いてみたい

・パソコン指導等

・学習生活につながられることなどの情報

・個々支援内容が違うと思いますが卒論のまとめが苦労したというところで、他の卒業生の論文等を参考としたかった

・学習援助(ex. 計画・方法等)

・就職活動

・科目選択に悩んだ時

・資格を取る時にどの様にすれば良いのか

・理解不足なところや更に進んだ内容を調べる方法など

・試験の傾向と対策、試験の勉強のポイント

14. その他コメント

・他の大学でもそうであるけれども、哲学関連の講義が少ないように思う。

・大学院に進むべきか? シミュレーションをしたい。進むとすればどの位の努力が必要なのか?

・私は長い年月をかけて卒業しました。転居、子育て、介護などで中断してしまうこともありましたが、続けられ

た事に感謝します。システムがかなり変わってしまい、単位がもう少しの人へのサポートをお願いします。

・孤独な学習もありましたが総合的に学べ満足です。ありがとうございました。

・すべての授業がインターネットでみる事ができたら、いつでも空いている時間に、また繰り返し視聴することができて有難い。

・放送授業は教科書通りに進めてほしい。

・TV放送では冒頭に講義科目と回数をアナウンスしてほしい。(音声で録音する事・音声だけで記録することが多い)

・学生の能力や要望も様々で運営も大変だと思いますが、今後の社会のために放送大学の重要性はますます増えると考えますので、是非頑張って頂きたいと思えます。

・再視聴のためのインターネットの更なる活用をお願いします。

・インターネットを使って、海外でも就学できるよう(学習を継続できるよう)にお願い致します。試験は日本国内で構いません。

・面接授業につきましては、放送授業を担当されている主任講師の先生方が、もっと関東地方の学習センターでも担当されると学生の学習意欲がわくかと思えます。テレビやラジオを通じて接していた先生に直接会って教えて頂けるというのは学習効果も高いと存じます。

・放送授業に関しましては、科目によっては必ずしも4年に一度更新する必要のないものもあるかと思えます。(語学、歴史等)科目によっては2~3年かけて単位取得を目指す場合もあります。このような場合頻繁な更新は却って学生を混乱させます。一方で社会福祉制度など政府の制度が変更になった場合は、更新後時間が経過していなくても再更新をお願いしたいと思います。(学生はほとんど実社会で働いており実社会で役に立たないこと、変わってしまったことを教えられても困ります)

・受講生が少ない現状は理解しておりますが、語学教育の再構築をお願い致します。ロシア語もすくなくなり特別講義で外国語への招待もめっきり少なくなりました。例えば、NHKの外国語番組と立体的に構成し、会話の部分はNHKで、文法の部分は放送大学でというように工夫されてもいいかと思えます。又、語学の面接授業は単位にならなくてよいので、再受講を許して下さい。御一考下さい。

学生生活に関するアンケート(入学者の集い配布分) 機関紙編集チーム 木下 義則

1. 配布年月日：平成21年10月11日

2. 回答数…99人

3. 属性

a) 学生種別

全科履修生	25	25.3%
生活と福祉	2	8.0%
心理と教育	9	36.0%
社会と産業	6	24.0%
人間と文化	3	12.0%
自然の理解	1	4.0%
専攻未記入	4	16.0%
選科履修生	35	35.4%
科目履修生	28	28.3%
修士選科生	5	5.0%
修士科目生	4	4.0%
学生種別未記入	2	2.0%

b) 入学区分

新入学	83	83.8%
再入学	11	11.1%
未記入	5	5.1%

c) 性別・年齢別 男性 女性

42	43.3%	55	56.7%	
20代	4	9.5%	3	5.5%
30代	9	21.4%	9	16.4%
40代	9	21.4%	21	38.2%
50代	7	16.7%	12	21.8%
60代	9	21.4%	8	14.5%
70代	4	9.5%	2	3.6%

性別・年齢未記入 2 —

d) 入学動機

入学動機はさまざまであるが、「生涯学習」が全体の24.4%と高く、特に50代以降の人が6割を占める。次いで多いのが「スキルアップ」への志向であり全ての年代で平均的に出ているのが特徴か。(20.7%)「教養をつけたかった」(16.3%)、「大学卒業資格取得」(14.1%)「公的資格取得」(12.6%)「余暇の有効活用」(6.7%)「放送大学エキスパート」(3.0%)となっている。前回までトップであった「大学卒業資格取得」が少ないのは、選科履修生や科目履修生が多いことが影響しているのか。

4. 学習センターの利用について

学習センターの利用については、「単位認定試験のみ」と答えた人が5%と非常に少ない、項目別では、「再視聴を利用」が一番多く43%であり、「図書室を利用」が23%、次いで「面接授業に参加」が16%である。この傾向は前回まで実施したアンケート結果と同様で

あり、入学者の集いに参加する新入生はセンターを積極的に活用しようという気持ちの表れなのか？

「サークル活動に参加」という項目では4%と低い率となっており、学生全体のサークル参加率と同程度の回答率となっている。

5. 学習生活で迷ったときの対処法

「学習センターの事務室に相談する」という回答が圧倒的に多く55%を占めている。次に「学習相談会等を利用する」(25.7%)であり、「先生に相談する」・「知人に相談する」(8.9%)が意外と低かった。

6. 研修旅行について

「参加したことがある・参加したい」が約半数(50.6%)と多く積極的参加姿勢が感じられる、特に40代から60代女性と60代の男性の参加希望率が高くなっている。

7. サークル加入に関すること

サークル加入に関することは「入っていない・入るつもりはない」が圧倒的で68%を占める結果となった。その理由の70%が「時間がない」であり、50代以下の現役世代がほとんどでした。この傾向は例年と同様でありサークル活動に時間を割くことが困難との意識が強いようである。反面、入会サークルを明記した人(25.8%)も若年層が若干ではあるがおり、積極的姿勢がうかがわれる。

8. フェスタ・ヨコハマについて

「参加してみたい」人の割合が38.4%となっており、男女とも30代から60代の中堅層に多く前回調査と同様の傾向となっている。

9. 学習相談会について

学習相談会については無回答が約4割と多いものの、「相談してみたい」という回答が37%を占めている。前回・前々回調査時の6割に比べると少ないが、コメントを見ると学習相談会に対する期待の大きさがうかがえる。

<相談内容:コメント>

- ・学習の過程で迷った時の相談
- ・資格取得や就職などのアドバイス、学習の方法
- ・卒業に向けてどのように学習を進めていけば良いのか
- ・とても頼りになる活動だと思います。このような場があると安心できます。
- ・学習方法や単位取得に関すること
- ・人気の授業など

10. 「センターだより」について
センターだよりの掲載内容については項目別に大きな差がなく、7%～20%となっている。「学習センターからの事務連絡」(19.6%)「面接授業の話題」(14.6%)「卒業研究・修士論文その他研究に関すること」(14.1%)の順となっている。

11. 「チーム制サポーターシステム」について
チーム制サポーターシステムについては新入学生へのアンケートということで認知度が低いのは仕方ないと思うが「知らなかった」が64%を占める。(前回調査時65%・前々回調査時71%)

12. 「大学や先輩から支援を受けられるとしたら何を希望しますか」の問いへの回答

- ・履修科目などの話(シラバスや要項だけではわかりにくい部分の補足、アドバイス)
- ・履修計画に対するアドバイス
- ・学習指導又は支援

13. 「放送大学へのご意見ご要望がありますか」の問いへの回答

- ・インターネットでのコンテンツを充実して欲しい(わかりやすくして欲しい)
- ・サイトでの質問と回答(掲示板)があると良い
- ・まず科目生として継続できるようにあれば続けていきたいと思っていますがシステムがよくわからないので、そのサポートを期待します。

Kーサポートからのお知らせ

平成22年度の学習相談会を、4月17日(土)から6月27日(日)までの土曜日と日曜日※午後1時から午後3時50分まで談話室の一角で開きます。相談は放送大学での学習で悩んでいる問題に限りませんが、まずはご相談ください。

※5/1,5/2はお休みします。

2月には、6日、13日、20日の土曜日にオープンキャンパスがあり、そこで個別の学習相談会が開かれます。ご家族やご友人で放送大学への入学に関心のある方がおられましたら、このオープンキャンパスと学習相談会に参加していただければと思います。

投稿募集

学習センターだよりでは、みなさまの投稿をお待ちしています。分野は問いませんが、放送大学の学生にとって興味のもてる話題が好ましいです。ご投稿いただいてから、掲載時期、掲載方法についてご相談させていただくことがありますのでご了承下さい。
宛先は、電子メール:ksupport@u-air.ac.jp
(Kーサポート事務局) または、神奈川学習センター事務室まで。

神奈川サークル協議会より

平成21年4月に発足した「神奈川サークル協議会」は、その後、各サークルおよび同窓会間の連携、協力、共存共栄の設立主旨に沿って順調に活動を継続しています。毎月1回協議会を開催し、議事録を残し、各サークルおよび同窓会のメンバーが結論を持ち帰り、それぞれの会員への周知を図っています。

詳細な成果は紙面に限りがありますので、後日に譲りますが、フェスタ・ヨコハマは種々の新機軸の導入や石学長の講演もあり300名を越す参加者を得ました。また、入学者の集いにおける入会勧誘方法のルール化、同窓会・学生団体室の設置、談話室のロッカー整備、同窓会用専用掲示板設置、など成果を挙げました。近々ではサークル協議会専用ネットを開設するなど、普段の情報発信方法も進化を遂げ、活性化の基礎を固めつつあります。学習センターとの意思疎通も円滑になりました。

以上 (文責:代表 木村勝紀)

編集後記

はじめて面接授業を取材しました。「いつ放送されるの？」と受講されている方に尋ねられ「来年1月に出るセンターだよりなんです…」と答えました。「取材」ということでテレビを想像されていたようです。最終コマだけの取材でしたので、受講されている方にお話を多くは聞けなかったのが心残りです。授業に聞き入っているところに写真撮影等の取材させていただきました。先生、受講生のみなさまのご協力に感謝いたします。(H)

学生サークルからのお知らせ

○神奈川放友会

神奈川放友会は「交友を楽しみながら放送大学で学習を続ける会」です。

***** 今後の日程 *****

1・2月21日 2月旅に行こう会(漱石史跡散策)

2・3月07日 3月執行役員・役員合同会

3・3月14日 3月月例会(会員報告会等)

4・3月28日 お花見・卒業生祝賀会

※放友会「ホームページ」アドレスが変わりました。新アドレス <http://kanagawa-hoyukai.jp/>
文書責任者 神奈川放友会 金田 保男

○ダンスサークル (社交ダンス)

学生は、勉強するのが当たり前ですが、心身共の健やかであってこそ頑張れるのではないでしょう。リズムに乗ってダンスをすれば気分爽快になること請け合いです。当サークルでは、体育実技の単位取得が可能になっています。

第1講義室で第2と第4の火曜日午後2時から4時までレッスンしています。見学に来てください。問い合わせは、電話/Fax:045-933-9753 (宮川)

○放大かながわレク・サークル

★ダンス部:レクリエーションダンス・フォークダンス
他練習日時:1、3水曜日 13～15時

★パソコン部:個人のニーズに応じた学習です。
学習日時:第1、3水曜日 15時～17時

★ウォーキング部:現在「東海道五十三次」に挑戦中です(月1回)。

★近代文学研究会:宮澤賢治の作品を研究しています。

日時:第4水曜日 13:30～16:00 *練習および学習場所はいずれも神奈川学習センター

問い合わせ先:中嶋博子TEL/FAX0467-83-8203

○うえるかむKanagawa

英語を楽しく学んでいるサークルです。

*例会は毎月第2、第4水曜日(例外あり)

*午前中はカリフォルニア大学出身のRichardとの英会話レッスン(初級、中級、上級)

*午後はEnglish songsの練習とGroup study

*うえるかむ名画座の開催(掲示板にて案内)

午前、午後どちらの参加でも可、是非一度教室を覗いてみませんか。英語を勉強すると世界が近づいてきます。

*各学習センター合同で、海外の公開大学等との交流も行っています。

問合せ先 星 reikosunflower@yahoo.co.jp
045-844-9647

○中国語コミュニケーション同好会

今年度は基本的に月2回、第二、第四土曜、13時から15時まで、中国人講師による、テキストやパワーポイントを中心にした授業。その他、中国映画の上映や時事中国語、音楽などの学習。来年度よりリニューアルを予定。

今年度会長:曾我(電話045-871-4780留守電)
または、直接学習会会場まで。見学歓迎。

会費:月2000円 2か月分まとめていただいています。

○韓国語同好会

★例会のご案内

毎月2回 第1、第3土曜日10時～12時

場所 神奈川学習センター講義室

講師 キム・ミンギョン先生・横浜国大留学生

★見学自由です。どうぞお出かけ下さい。

問合せ

村田カズ子 TEL/FAX 045-864-6551

石丸 迪子 0467-31-0714

○人間学研究会

1. 例会の予定(いずれも午後1時開会)お問い合わせ・参加申し込み:安田武夫Tel045-775-0879
3月13日(土)「脳血管症患者の社会復帰に向けて」
4月4日(日) (内容未定)
2. 「歩きましょう」
(お問合せ:大出鍋蔵 Tel046-841-7937)
2月14日(日)第9回三浦半島シーサイドウォーク
2月21日～28日 第4回旧山陽道を歩く

○中国語学習会

授業は初級、中級とそれぞれ中国人の先生を迎えて学習を続けています。特に中級は、理解の有無に関わらず、中国語でのシャワー感覚を楽しみながらの授業。皆それぞれ中国語で身近な話題にまとめて発表するのですが、それが楽しみであったり、苦痛であったり、先生の聞き取り力に助けられて和気藹々授業を展開しています。

問い合わせ: 万場由美子 046-293-5521

○資格取得研究会

看護、福祉分野のキャリアアップや就職を目指す集まりです。現在、看護師を目指している方が半数です。内容は例会(情報交換)と講演会の聴講など。これからの例会予定
 ・2月7日(日)13:00～ 大岡地区センター
 ・3月7日(日)15:00～(変更の場合あり会場未定)
 ・4月4日(日)13:00～ 神奈川学習センター
 会費: ¥500(1年間)
 ホームページ…<http://shikaku.yumesora.net>
 お問い合わせ…080-5546-7913(はこぎ)

○神奈川合唱団

一緒に歌い友だちの輪を広げましょう。体操、発声法(特に力を入れて指導)いつものパターンです。曲目は「学歌」、「冬が来る前に」、「友だちはいいもんだ」等の曲を歌う。発表の場は、毎年3月卒業式(NHKホール)学習センター入学式他。時間の許す限り友との語らいの場をもち親睦を深めています。是非参加ください。一見学歓迎
 練習日 大岡地区センター音楽室(学習センター前)第1、第3水曜日 PM6:00～8:30(変更あり)
 問い合わせ TEL/FAX 0466-34-7545 家田

講演会・映画鑑賞会のお知らせ
 日時: 2010年2月28日(日) 10:00～16:30
 場所: 放送大学神奈川学習センター 第8講義室

<p>講演会</p> <p>10:00～12:00 演題: 『学問のススメ』 講師: 渡辺 豊介 神奈川学習センター所長</p> <p>●講演概要 西洋人のものの見方、 和書の違いを比較しながら、 新しい学問が 生み出される過程を考へます。 様々な分野の知識を 盛り合わせながら、 楽しい意見交換をしたい と思っています。</p> <p>講師プロフィール 1943年 横浜生まれ 1968年3月 横浜国立大学大学院 工学研究科修士課程修了 1968年4月 横浜国立大学助教授 1980年 横浜国立大学教授 2004年 横浜国立大学理事・副学長 2006年3月 横浜国立大学名誉教授 2006年4月 放送大学特任教授 神奈川学習センター所長</p> <p>主な著書 『ソリトン物理入門』培風館 1985年 『一般力学入門』培風館 1988年 『物理・力学講義』岩波書店 1990年 『ソリトン非線形ゆらぎ』岩波書店1992年 『ベクトル解析演習』岩波書店 1989年</p> <p>主催: 神奈川サークル協議会</p>	<p>映画鑑賞会</p> <p>『日の名残り』 1993年 イギリス作品</p> <p>監督: ジェームズ・アイボリー 主演: アンソニー・ホプキンス</p> <p>■講演 13:00～13:40 演題: 『ベトナム スクールスポンサーシップ』について現地報告 講師: 津田 恵美氏 (財)プラン・ジャパン 支援者サポート部</p> <p>■映画 13:40～16:30 解説: 『映像文化(映画)と 文字文化(文学)』 講師: 西浦 久美 氏 横浜映画研究会会長 放送大学第2期生</p> <p>●あらずじ 1950年代、英国の名門家に一生をささ げた貴族が、自身の半生を回想し、種 々に田舎なまより断ち切ってしまった業 を確かめる様を描いた人間ドラマ。 貴族の仕舞かつ繊細な演技が感動を帯 び起こす静かな名作。</p> <p>主催: 放送大学神奈川同窓会</p>
--	---

入室無料 事前申し込み不要(直接会場にお越し下さい)
 主催: 神奈川サークル協議会/放送大学神奈川同窓会(共催)
 協賛: 放送大学神奈川学習センター
 お問い合わせは、045-491-9111(木下)まで

神奈川同窓会からのお知らせ

恒例の講演会・映画鑑賞会を開催します。
 2月28日(日)、サークル協議会との共催で
 午前の講演会に引き続き、13:00より日本フ
 ォスタープラン協会の講演、西浦久美氏の講演、
 『日の名残り』(英国、アンソニー・ホプキンス
 演)の映画鑑賞です。(会場:第8講義室)
 多数のご参加をお待ちしております。
 問い合わせ 090-8510-0971 高橋
 フォスター・プラン現地報告
 時間 13:00～13:40
 「ベトナム スクールスポンサーシップ」について
 (財)プラン・ジャパン 支援者サポート部
 津田 恵美 氏

UA神奈川学習センターだより編集部
 佐々木、笠井、星、赤松、家田、木下、平林、笠崎
 (以上、K-サポート機関紙編集チーム)
 垣谷(K-サポート事務局) 福島(学習センター事務局)

学習センターからのお知らせ

◆ 学生募集について ◆

学ぶ喜びをより多くの方々に知っていただきたいと思い皆様のご家族・ご友人・知人に放送大学の魅力や利用方法をご紹介下さるようお願いいたします。（お一人ご紹介で1点プレゼントの「ご紹介キャンペーン」実施中です。）

【平成22年度第1学期入学（4月入学）の教養学部生、大学院修士選科・科目生】

出願受付期間：平成21年11月15日（日）～平成22年2月28日（日）

◆ 科目登録申請について ◆

平成22年度第1学期の科目登録申請は下記のとおりです。登録を忘れないようご注意ください！！

申請期間：平成22年2月5日（金）～平成22年3月1日（月）

対象学生：平成22年度第1学期に引続き学籍がある方

注意事項：◎在学生の次学期の科目登録（放送授業及び面接授業）申請です。

入学（出願）手続きとは申請期間が異なります。

◎インターネットでの科目登録も可能です。詳細は、「科目登録申請要項」をご確認ください。

◆ 特別聴講学生募集について ◆

放送大学（神奈川学習センター）では、横浜国立大学と神奈川県立外語短期大学が放送大学と相互に単位を互換する協定を結び、双方向による単位互換を実施します。

これにより、放送大学の学生（全科履修生）は、単位互換協定を締結している横浜国立大学と神奈川県立外語短期大学の授業科目を履修することができ、修得した単位は、放送大学の単位として認定されます。

平成22年度第1学期の募集については平成22年2月以降に神奈川学習センター掲示版・ホームページで周知いたします。

1. 出願資格 ①全科履修生

②本学の在学年度が1年以上の者

③放送授業科目において30単位以上を修得した者

（出願先「横浜国立大学または神奈川県立外語短期大学」へ通学が可能である。）

2. 出願のための履修相談先

神奈川学習センター事務室窓口

◆ 神奈川学習センター改修工事について ◆

センター2階（内装）の改修工事を行うことになりました。

工事期間中は、センター2階の利用はできません。騒音等で大変ご不便

・ご迷惑をおかけしますが、ご協力くださるようお願い申し上げます。

工事期間：平成22年2月1日（月）～平成22年3月31日（水）